

当園では、平成 26 年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や、園運営の状況を振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、さらに向上するための非常によい機会となりました。、さらに向上するための非常によい機会となりました。
今年度の学校評価結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 健康な心身をつくる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流を通して)
3. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培体験、飼育活動、行事を通して)
4. 豊かな感性、創造力、表現力を育てる。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然に身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「ごめんなさい」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「どうぞ」という 謙虚な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を理解する目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んで行くための姿勢を身に付けることを重点目標とする。また、自園の自然豊かな環境と少人数での教育環境の長所を認識し、環境を十分に活かした教育を行うことを重点目標とする。その中でも、幼児の自ら考え遊びを進める主体性に着目し、異年齢間での関わりや自由遊びにおける教師の環境設定や幼児理解のため教師の着眼すべき点について職員間で議論し深めていきたい。自園の教育の特色である栽培体験を中心とした食育をさらに充実し、幼児期における食の重要性に着目した上で教育内容を深める。また、園での活動を積極的に保護者へも発信し、保護の食の重要性への意識も高めていく。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができているか。また、その為のどのような取り組みがなされているか。	A	教育方針や目標については、定期的な会議で職員間で話し合いや振り返りを行い、共通理解を深めている。教育方針を中心にしながらも、目の前の子どもの育ちや課題に応じて、柔軟に保育内容を計画するよう取り組んでいる。また、行事などの内容についても教育方針・目標に沿い、行事のねらいや目的を再確認すると共に、保護者のニーズも加味したものになるよう取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	カリキュラムの評価・反省を行い、日々の保育と計画に活かされるよう取り組んでいるか。	A	日々の保育の振り返りは、毎日、保育日誌、週案に記録し、毎月末に反省点をまとめ、次の月の保育と計画に活かしている。また、職員会議において、日常の保育内容や自由保育での子どもの見取りの重要点や、子どもへの配慮点について話し合い、課題を持ち、次の保育計画にいかしている。週案作成時には、保育内容や自由保育と設定保育のバランスを考え、子どもの日常の興味や関心に沿った、指導計画を作成している。
3	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	A	子ども達の興味や関心に応じて好きな遊びが主体的にできるように、教師の配慮や環境構成を行っている。そして子どもの日常の遊びの中からの興味や関心をもとに、カリキュラムを作成し、音楽や造形、体育遊び等、創造的な活動や身体全体を使って行う活動を、多数実践している。中でも、園環境を生かした山登りやマラソン等、運動にも力をいれている。
4	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為のどのような取り組みを行っているか。	A	子ども達が日常生活の中で、異年齢の交流がもてるような部屋の配置を実践している。どの年齢の子どもも、自分のクラスや学年にとどまらず、自由に部屋を行き来し、関わり遊ぶ姿が日常ある。異年齢交流保育(ウキウキデー)を行っており、子ども達が主体的に遊びを進める環境づくり重要視している。環境づくりにおいては、教師が、子どもの遊びの様子を観察し見取りのポイントを職員間で話し合い、次の環境設定を検討している。遊びが自発的に進むような教師の関わりにも重点をおいている。近年、子ども達の身体の発達や身のこなし方の未熟さを感じる。特に遊びの中で多様な動きが経験でき、何度も繰り返すことに面白さを感じるような環境の構成を重視している。
5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	A	園内研修では、月に1回程度、公開保育を実施し、職員間で教材研究を行い、研究意識を高めていけるよう取り組んでいる。公開保育の内容については、様々な分野における指導力を高めるため、多様な分野で公開保育を行うように設定している。さらに、音楽、体育等、専門分野の講師を招き、指導についてアドバイスをいただき、自らの保育に活かすようにしている。また、経験年数や担当学年に応じて研修を選択し、自ら積極的に参加し、それぞれの保育力向上に取り組んでいる。

6	安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	園内の安全点検を定期的に行い、修理等の対応も早急に実施した。火災・地震を想定しての避難訓練を定期的に行い、緊急時に備えている。また、不審者の侵入の供え、保護者や来園者の進入経路を少なくした。来園者への園内立入証着用を徹底した。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	A	園児のその日の体調等を全職員が把握し体調の変化に即時対応できるようにした。また、日頃の感染症の流行や対策等についても保護者への発信も徹底した。保育室内や、トイレの消毒等も行った。嘔吐などの処理のマニュアルの確認と徹底を行い職員間の意識を高めた。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	B	地域の老人施設への慰問や地域の学校との交流等積極的に行った。また、一人暮らしの方へのプレゼント製作等、地域への協力にも努めた。園での様々な栽培体験を通し、収穫した野菜を調理し食べることで、食への関心は高まり、それが家庭での食への意識に少しずつよい影響をもたらしている。

【評価の基準】

A：十分に達成されている B：達成されている C：取組はされているが十分でない D：取組が不十分である

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の個々での振り返りや反省は取り組んでいる。また、学年にとどまらず、次年度へのつながりも意識し、園全体で、各学年の指導計画についての反省や課題についても、充実した話し合いを実践している。話し合いにおいては、個々の子どもの育ちや遊びへの取り組み方にも視点をおき、さらに職員間の子どもを見取る力をつけていきたい。
2	教育環境の構成	日常の子ども達の興味や関心に応じて好きな遊びが主体的にできるように、教師の配慮や環境構成を行っていきたい。ここ数年の新入園児の子ども達の身体の発達や、運動面の未熟さを感じる。特に身体を動かして遊んでいる中で、多様な動きを身につけていくことができるように、様々な遊びが体験できるような手立てと環境の構成を重視していきたい。保育者だけでなく保護者や幼児に関わる人々が、幼児期の運動の重要性を共感できるよう、園からも発信していきたいと考えている。
3	安全管理体制の整備	防災マニュアルの整備防犯対策にさらに注力していきたい。また、災害の際の備蓄関係の整備も行いたい。
4	地域との連携	園児が地域の行事に参加し、演技等を披露している。これまで以上に積極的に地域との交流を深めつつ、地域の方にも園の行事に参加していただく機会を増やしていきたいと考えている。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。青山よさみ幼稚園の先生方の、子どもには、いつも感心させられます。個々の育ちに沿った、一人一人への丁寧な関わりを、今後も継続してほしい。この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されることを期待します。

